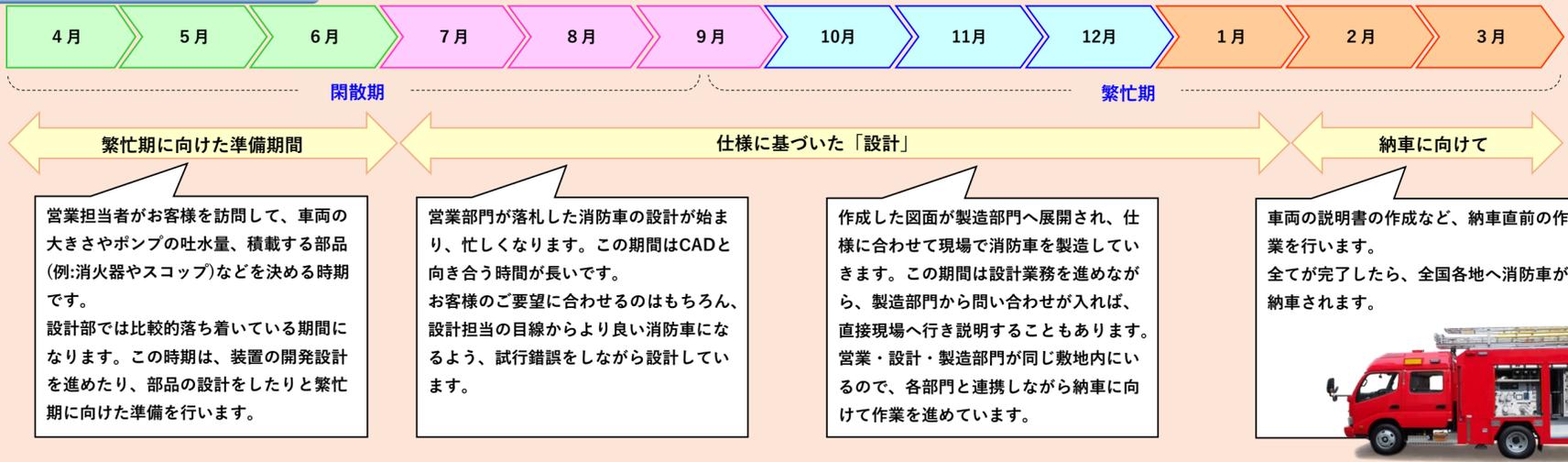


設計部の紹介

（設計部の年間スケジュール）



（設計部員の声）設計担当者に質問してみました！



車両設計所属（20代/新卒入社）

【業務内容】

ポンプ車の設計をメインに担当。最近では化学車の設計も行う。

Q：入社から今までに担当した業務の流れはどのようなものでしたか？

A：まずは部品設計から入り、ポンプ車に付随する数十種の部品図面の一部を担当します。ブラケット（取付金具）や資機材の取付部品の図面作成から始まり、慣れてくれば車両全体の設計を任せてもらえます。ポンプ車や化学車の他にも、水槽車・積載車などの設計も経験しました。

Q：大学を卒業後、消防車の部品設計の業務についてスムーズに入り込めていきましたか？

A：自社独自の図面の書き方やCADソフトの扱い方に多少の慣れは必要ですが、基本的な製図についての知識を大学で学んでいたため、問題はありませんでした。

Q：仕事における魅力ややりがいなどはどんなことがありますか？

A：自分の設計した車両が完成し、この目で完成車両を見ることができるとは他社にはない魅力だと思います。また、資機材の取付装置などは自分で一から設計を考えるケースもあるので、自分が考えて作った設計がうまくはまって完成車に搭載されたときは、とてもやりがいを感じます。

Q：今後の目標を教えてください。

A：設計開発をやりたいと思っています。今は車両を設計していますが、当社の標準となる機構の開発をし、当社の設計標準となるようなものを会社に残すことが今の目標です。



車両設計所属（30代/中途入社）

【業務内容】

入社後すぐは部品図面の修正を担当し、現在は車両1台の図面作成を行う。

Q：入社してどのくらいですか？

A：半年ほどです。まだ自社のルールなどに慣れていない部分がありますが、試行錯誤しながら一つ一つ仕事をこなしています。

Q：前職ではどのような業務をされていたか？

A：金型設計を行っていました。製図の基礎はそこで学び、今の業務に活かされています。消防車両1台の全体バランスを見ながら設計をする視点は前職ではなかったため、新しい学びが増えました。

Q：入社してみて会社の魅力だと思うところはありますか？

A：プライベートな時間を大事にできることです。定時が早い（閑散期16時30分、繁忙期16時50分）ので、定時後のプライベートな時間を充実させることができます。また、自分のペースで仕事ができるので、業務の進捗にはよりありますが有休も入れやすいです。業務とは関係ないですが、食堂があるのも有難いです。リーズナブルで充実した昼食を摂ることができています。

Q：今後の目標を教えてください。

A：今はポンプ車の設計をメインに行っていますが、いずれは大型の車両の設計をしたいです。



システム設計所属（30代係長/中途入社）

【業務内容】

配管設計全般を担当。その他にポンプ車、水槽車、化学車などの車両設計を行う。

Q：前職と比べて自社の魅力は何ですか？

A：完成車をこの目で見られることです。前職はエンジン関連の部品設計を担当していて、私が設計したものはエンジン内に格納されるので、目で見ることができませんでした。自分が設計した車両が業界雑誌に載っているのを見るとテンションが上がります。

Q：自社の特徴的なところはありますか？

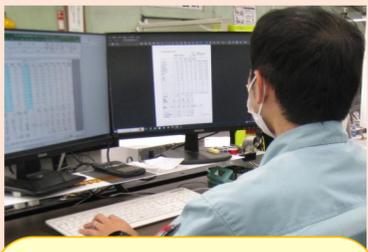
A：閑散期があることです。設計業界で閑散期があるのはかなり珍しいかもしれません。閑散期があることでメリハリのある働き方ができます。有休を取ったり、繁忙期に向けて使用頻度の高い部品の標準図面を作成したり、この期間をうまく活用しています。

Q：社内・業務中のコミュニケーションについて教えてください。

A：設計部内では、必要に応じてわからないことを聞いたり確認したりと連携しています。例えば、車両1台を設計するにあたり、電気配線関係のことは電気担当の設計社員がいるのでその人に聞いたりします。気軽に教えてください。また、消防車を実際に組み立てる製造現場から依頼があり、図面を見ながら現場の社員と部品の取り付け方について協議する場合もあります。

Q：今後の業務について、何か目標はありますか？

A：消防業界で流行するような車両を作りたいです。



システム設計所属（40代課長/新卒入社）

【業務内容】

水槽車のタンク設計をメインに担当。防衛省や航空局、原子力発電所などで使用される特装車（高所化学放水車、空港化学消防車）の設計も行う。

Q：新卒で入社した経緯を教えてください。

A：車関係に興味があり、消防車という子供が憧れるものを扱っている点に興味を持ちました。また、公共性の高い製品なので安定性もあるだろうと思い、志望しました。

Q：タンク設計の仕事とはどのようなことをするのですか？

A：近年の水槽タンクは軽量化に伴い金属製ではなく、プラスチック製の立体物が主流です。3D設計ソフトで図面を作成し、機械切り出しのためのプログラムを作成します。タンク車は台数が多いため複数人で業務を行っており、私はその全体の統括を担当しています。

Q：消防車を設計する上で必要となる学問の知識などはありますか？

A：物体の変形・破壊などを知る材料力学や、ポンプ性能・放水性能を計算する流体力学の基礎知識は必要となります。大学や専門学校で基礎を学んでいれば大丈夫だと思います。

Q：仕事の魅力は何ですか？

A：設計～完成までの全て自社で完結するところです。完成車を見ることができるとは当社設計職の大きな魅力だと思います。経験を積めば、自社の営業担当と消防職員との打ち合わせに同行することもあります。一から消防車を作り上げていくので、非常にやりがいを感じます。